

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	スナップ
Author(s)	児童の言語生態研究会,
Citation	児童の言語生態研究 , 4 : 70 - 70
Issue Date	1970-12-15
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045052">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045052</a>
Right	
Relation	



朝、教室に入って来るなり、「センセ、昨日、雷降ったね。」なる程、その日は、強い雨と共に雷が鳴り続いた。  
(一年男児)

朝から汗がにじみ出るような暑さ。そこで「上着の脱げる人は、脱ぎなさい。」というところ「はい。」の返事と共に脱ぎはじめ。あれよ、あれよという間に上半身は、シャツまで脱いで裸。そして「脱げたよ。」とすましている。脱げる人とは、この子ども達にとっては、脱ぐことのできる人である事を知らされた。

(一年四月)

梅雨の或る日、昼ごろからにわかには暗くなり、みるみるうちに夕暮れ時の暗さになった。子ども達は急な天候の変化にザワめく。「わあっ、ぶきみわるい。」  
(二年男児)

### 国語の時間

「『……』といます。』ということばは、どんな時に使いますか。」

二年女児「何か自分が思っていたり、考えたりしている事を言う時に使います。」

二年男児「行儀がいいみたい。」

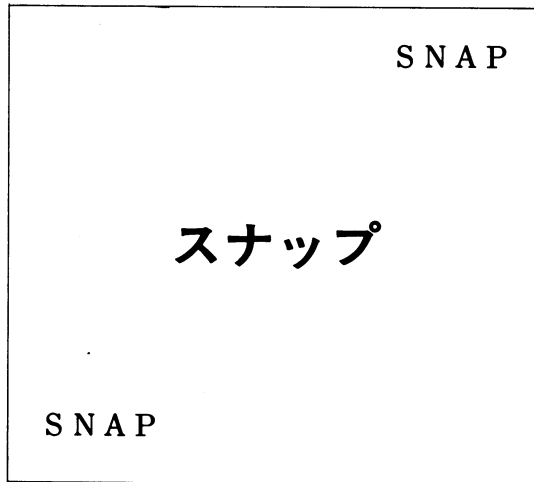
教師「どうして、行儀がいいみたい。」

その男児「遠慮して言うから。」

なる程、キツパリといいきらずにそのあとに「……」と「……」をつけると柔かい。

校内放送でアナウンサー「きのう、芳垣先生の家にド

ロボウが入りました。あいにく怪我はありませんでした。」  
その放送を聞いていた六年男児



「あいにくなんていっている。幸いならいいけど。」

教師「あいにくでは、おかしいの。」

その児童「まるで先生が憎らしいみたい。もっと盗ら

れて、けがした方がいいみたい。」  
(六年男児)

二年一学期終り頃、「かなしい気持ちを書きなさい」って作文させた。

「わたしは、うちへかえればだれもいません。きょうは、うちに百円おいてあって、あんパンをかっつたべます。でもやっぱりうちにおかあさんやおとうさんがいなければ、さびしくていぬや大すきなおにんぎょうにだきつきます。まいにち、まいにちさびしくてさびしくてなきそうです。」

と書いたY子ちゃん、作文用紙を手渡ししながら、そつと、「本当は、犬にだけだきつくのよ。」と耳打ちした。

以上横浜市立三ツ沢小学校教諭相川真理報告

厳密？

内地留学の身となって、奉職校を離れ、教え子に便りをした。

最高学年の六年生となって、もう二月、感想は？

その返事曰く

二月月と書いてあったけれど、三月月か二月月もたっているの、二月月目のことは書けないけども、ときどき六年生になったというのが信じられなくなり  
(相模原市清心小学校教諭清水駿報告)